

「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業構想<中・道徳>

特別研修員 道徳 木幡 勇太（中学校教諭）

主題名 自己を見つめる
内容項目A-(3)向上心、個性の伸長

教材名 『ぼくにもこんな「よいところ」がある』

主題名 コミュニケーションの原点
内容項目B-(9)相互理解、寛容

教材名 『心にしみこむ言葉の力』

授業改善の視点

展開後段において、教材に登場した主人公の気持ちを理解させるために、体験的な活動を取り入れる。体験的な活動では、ペアになって、お互いの短所を長所に変えて伝え合い、「ぼく」の気持ちを共感できるようにする。

授業改善の視点

「よりよい人間関係を築くために、どんな気持ちが大切か」を考えさせる場面において、個人で考えてから班で話し合う。さらに、全体で意見を交流させたり、教師が問い返しをしたりすることで多面的・多角的に考えを広げ、深めさせる。

過程

主な学習活動（○発問 ◎中心発問）

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○アンケートの結果から、どのようなことに気づきますか。

道徳的諸価値についての理解を深めるために

- ・「長所と短所」についてのアンケート結果を提示し、長所よりも短所の方が多いことに気付かせる。
- ・なぜ短所の方が多いのかを考えさせることで、問題意識をもたせる。

自分の個性を更に伸ばすためには、何が必要だろうか。

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○自分の考えや気持ちが相手にうまく伝わらなかった経験はないだろうか。

道徳的諸価値についての理解を深めるために

- ・アンケートの結果を提示し、うまく伝わらなかった原因を考えさせることで、問題意識をもたせる。
- ・問題意識を基にして、コミュニケーション（人間関係）で何が大切なのかを考えていくようにする。

よりよい人間関係を築くために大切なことは何だろう。

展開

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行う。

○「ぼく」の長所と短所は何ですか。

◎「ぼく」は、「これまでとは違って落ち着いた気持ちでいることができる」と感じたのはなぜだろうか。

○体験的な活動「短所も見方を変えれば長所になる」を行って、「ぼく」の気持ちを考えよう。



<ペアで活動している様子>

友達から「よいところ」を指摘され、自分の「よいところ」に目を向けた「ぼく」が自分を受け入れたため、他人の欠点も気にならなくなった心の変容について、問い返しをすることで押さえる。

物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために

- ・主人公の気持ちを理解させるため、体験的な活動「短所も見方を変えれば長所になる」を行う。
- ・この活動を通して、生徒一人一人に自分の「よさ」に気付かせ、「ぼく」の気持ちを共感できるようにする。

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行う。

○「自分の気持ちを伝える」時に、池上さんが気を付けていることはどのようなことだろうか。

◎なぜ、池上さんはコミュニケーションの原点は「相手の話をよく聞くことだ」と言ったのでしょうか。

池上さんの考え方に対して、自分はどのように考えるのかを問い、道徳的諸価値の理解を深める。

○よりよい人間関係を築くために、どのような気持ちが大切だと思いますか。



<班で意見交流をしている様子>

物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために

- ・自分の考えを班の中で発表し意見交流をさせ、教師は班を回りながら生徒の意見に対して問い返すことで、物事を広い視野から多面的・多角的に考えさせる。

終末

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○自分の個性を更に伸ばすためには、どのようにしたらよいでしょうか。

人間としての生き方についての考えを深めるために

- ・今までの自分の考え方と体験的な活動を通して学んだことを基に、これからの自己の生き方や人間としての生き方を考えさせる。

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○よりよい人間関係づくりについて、今までの自分を振り返り、ワークシートに整理しましょう。

人間としての生き方についての考えを深めるために

- ・本時の学習を通して学んだことを基に、自分の考えを整理したり、友達のことを聞いて自分の考えを見つめ直したりすることで、道徳的価値のよさや大切さを考えさせる。

道徳科学習指導案

平成30年10月 第3学年 指導者 木幡 勇太

1 主題名 コミュニケーションの原点 内容項目B－(9) 相互理解、寛容

2 教材名 「心にしみこむ言葉の力」 (出典：東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人間が相互に個性や立場を尊重すること（相互理解や寛容）が、自分の人生にとってどのような価値をもつのか考えさせる。さらに、その中で、誰もが様々な立場に立って個性を発揮することのよさと、相手や場面が変わっても、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶことが人間としての成長に役立つことを理解できるようにしていく。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒は、学級全体での場面で発言する生徒が限られてしまったり、他の人の意見に同調してしまったりする姿が見られる。このように自分の考えや意見をもっているけれども、それを相手にうまく発信することができない実態がある。そこでコミュニケーションの原点について考えることを通して、他に同調するだけでなく、自分の考えや意見を積極的に伝えることや、謙虚な心をもって互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立っているいろいろなものの方見方や考え方があることを理解し、自らを高めていこうとする心情を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、コミュニケーションの原点として、まずは相手の話をよく聞くことや、気持ちを伝える場合の感情表現の在り方など、池上彰さんの考え方が述べられている。池上さんは、長年の報道記者や11年間の「週刊こどもニュース」の司会者の経験から、相手（子供）に分かりやすく伝えるためには、相手の気持ちを考えて、相手の話をよく聞くことだと結論づけている。

4 指導方針

○本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつために

- ・「これまでに自分の考えや気持ちが相手にうまく伝わらなかった経験はありますか」というアンケートを取り、その経験を全体で共有することでコミュニケーションをとることの難しさについて問題意識をもたせる。
- ・自分の考えや気持ちが相手にうまく伝わらなかった原因として、自分の思いを一方向的に話していて、相手のことはあまり考えていなかったことが考えられることに気付かせる。

○中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために

- ・中心的な発問の場面で、池上さんの考え方に対して、自分はどう考えるのか（自我関与）を問う。
- ・池上さんの考え方に対して、班での意見交流により多様な意見を取り上げ、全体で共有させる。

○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・「寛容な心」「謙虚に他に学ぶこと」を道徳的価値の中核とし、「思いやりの心」「礼儀」「信頼」などと他者に対して関わる時に必要とされる道徳的価値について、多面的・多角的に考えられるようにする。
- ・本時の学習を振り返り、今までの自分と比較し、これからの自己の生き方や人間としての生き方について考えさせる。

5 本時の展開

(1) ねらい

池上さんの心情や根底にある思いを考えることを通して、よりよい人間関係づくりに必要な寛容の心をもち謙虚に他に学び、自らを高めていこうとする心情を育てる。

(2) 準備

教師：アンケート結果の掲示物、ワークシート、班シート、赤と青のマーカーペン

(3) 展開

学習活動と発問	時間	予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 アンケートの結果を見て、うまく伝わらなかった原因から問題意識をもつ。</p> <p>○自分の考えや気持ちが相手にうまく伝えられなかった経験はありますか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">よりよい人間関係を築くために大切なことは何だろう。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言い方に問題があり、相手に違う意味で伝わってしまった。 ・自分が一生懸命話しているのに、相手が理解してくれなかった。 ・弟や妹に話すときに、自分の言いたいことを理解してもらえなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事前にアンケート「これまでに自分の考えや気持ちが相手にうまく伝わらなかった経験はありますか」を行う。 ●アンケート結果から、うまく伝わらなかった原因を考えさせることで問題意識をもたせ、本時の学習課題につなげる。
<p>2 「心にしみこむ言葉の力」を読んで、話し合う。</p> <p>○「自分の気持ちを伝える」ときに、池上さんが気を付けていることはどのようなことでしょうか。</p> <p>◎なぜ、池上さんは、コミュニケーションの原点は、「相手の話をよく聞くことだ」と言ったのでしょうか。</p> <p>【問い返し(◇)】</p> <p>◇相手のことが理解できるとどうなりますか？</p> <p>○よりよい人間関係を築くために、どのような気持ちが大切だと思いますか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">話し合いの流れ</p> <p>・自分の考え(押さえ) →他者の考え(発表)→話し合い</p>	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・よき伝え手はよき聞き手だから、相手の話によく耳を傾けること。 ・相手は今、どういう気持ちでいるのか、私のことをどこまで理解してくれているのかを知ること。 ・相手はどことが分からないのか、どの言葉が理解できないのかを考え、相手の話に耳を傾けること。 ・ビジネスでは、感情をコントロールし、プライベートでは、感情をもっと表現してもいい。 ・自分の知識だけど、相手がどんなことを知っていて、どこまで理解できるかが分からないから、相手の話をよく聞くことは大切だと思う。 ・相手の理解できる範囲を知っていれば、状況に応じて言葉をかみ砕いたり、説明したりすることができると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●池上さんの経験から、よき伝え手は、よき聞き手であることを捉えさせる。 ●「謙虚な心をもって相手の考えや気持ちを理解した上で、少しずつ自分の気持ちを出すことが互いの心を通じ合わせる」という池上さんの考えに共感させる。 ●池上さんが考えている感情表現について、生徒から意見が出ない場合は、補助発問をすることで生徒からの発言を引き出させる。 ●池上さんの考えに対して、自分だったらどう考えるのかを問い、自我関与させる。 ●生徒の発言に対して、「もう少し詳しく教えて」や「具体的にどうなるのか」等と問い返すことで、価値に向かったり、考えを深めたりできるようにする。
<p>3 本時の学習で感じたことや考えたことをワークシートに書きながら整理する。</p>	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を思いやる気持ち ・相手の事を優先的に考えようとする気持ち。 ・自分の一方的な考えを相手に押し付けない気持ち。 ・相手から言われたことに対して「そういう考え方もあるな」と受け入れる気持ち。 	<ul style="list-style-type: none"> ●班の意見を、班シートにまとめ、全体で共有し、比較・分類により、「寛容の心」「謙虚に他に学ぶ」という道徳的価値に気付かせる。 ●「自分のこと」は赤、「相手のこと」は青の下線を引き、区別したことが見やすくなるようにする。
	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションは、相手がいてこそ成り立つものなので自分の意見ばかり言うのではなく、相手の意見を聞くことが大切だと分かりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ●よりよい人間関係づくりについて今までの自分を振り返らせ、ワークシートに整理させる。

(4) 評価の視点

- 池上さんの心情や根底にある思いを考え、意見交流することを通して、寛容の心をもち謙虚に他に学び、自らを高めていくことについて、多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- よりよい人間関係づくりについて考えることで、寛容の心をもち謙虚に他に学び、自らを高めていくことについて、自分自身との関わりの中で深めているか。

指導例：主題名 コミュニケーションの原点 B-(9)相互理解、寛容
教材名 『心にしみこむ言葉の力』（東京書籍）第3学年

ねらい：池上さんの心情や根底にある思いを考えることを通して、よりよい人間関係づくりに必要な寛容の心をもち謙虚に他に学び、自らを高めていこうとする心情を育てる。

過程

主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇問い返し）

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○自分の考えや気持ちが相手にうまく伝わらなかった経験はないだろうか。
S：自分の言い方に問題があり、相手に違う意味で伝わってしまった。
T：具体的に言うとしたらどのような場面ですか。
S：SNSで「今日遊べる？」という誘いに対して断るつもりで「今日はいいよ」と送ったが、相手には違う意味に捉えられてしまった。
T：文字だけで見ると、「遊べるよ」という意味で伝わってしまうね。
今日の授業では、コミュニケーションをとる上で何が大切なのかについて考えてみましょう。

よりよい人間関係を築くために大切なことは何だろう。

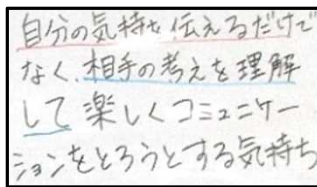
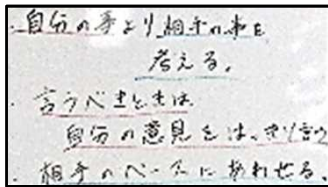
展開

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行う。

○「自分の気持ちを伝える」ときに、池上さんが気を付けていることはどのようなことでしょうか。
S：相手は今、どういう気持ちでいるのか、私のことをどこまで理解してくれているのかを知ること。
S：喜怒哀楽の感情は仕事の場面ではうまくコントロールすること。家庭内ではきちんと言葉で伝えること。
◎なぜ、池上さんは、コミュニケーションの原点は、「相手の話をよく聞くことだ」と言ったのでしょうか。
S：自分の知識だけだと、相手がどんなことを知っていて、どこまで理解できるかが分からないから、相手の話をよく聞くことは大切だと思う。

◇相手のことが理解できるとどのようになりますか。
S：相手の理解できる範囲を知っていれば、状況に応じて言葉をかみ砕いたり、説明したりすることができると思う。

○よりよい人間関係を築くために、どのような気持ちが必要だと思いますか。
S：相手のことを理解する気持ち。
S：理解ってどういうことかな。
S：自分の一方的な考えを相手に押し付けない気持ちだと思う。
◇ずっと受け身でいればいいのかな。
S：言うべきことはきちんと言わないと駄目だと思います。



<様々な意見を分類した例>

終末

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○よりよい人間関係づくりについて、今までの自分を振り返り、ワークシートに整理しましょう。
S：お互いを尊重し合うことが人間関係をよりよくする一つの要因ではないかと思いました。
S：自分のことをたくさん話せる人がコミュニケーション力が高いのではなくて、相手が話しかけたいような人がコミュニケーション力が高いのだと思いました。

指導のポイント

問題意識

○「今までに自分の考えや気持ちが相手にうまく伝わらなかった経験はありますか」というアンケートの結果から、うまく伝わらなかった原因を考えさせることで問題意識をもたせる。

協働や対話の場

○教師が各班を回り、「相手を尊重するってどういうこと？」や「相手を優先して、自分のことは大切にしないでいいの？」などと問い返ししながら多面的・多角的に考えられるようにする。

活動の手順

- ①個人でワークシートに記入させる。
- ②一人一人が考えたことを班の中で意見交流させる。



<班で意見交流をしている様子>

○様々な意見について黒板に掲示し、「自分のこと」は赤、「相手のこと」は青の下線で区別して見やすいように分類する。また、これらを見ていき、全体で比較・検討させる。

振り返り

○本時の学習から今までの自分を振り返り、これからの自己の生き方や人間としての生き方について考えさせる。
○友達の考えを聞くことで自分の考えを見つめ直し、道徳的価値のよさや大切さを考えさせる。

評価の視点

- ・池上さんの心情や根底にある思いを考え、意見交流することを通して、寛容の心をもち謙虚に他に学び、自らを高めていくことについて、多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ・よりよい人間関係づくりについて考えることで、寛容の心をもち謙虚に他に学び、自らを高めていくことについて、自分自身との関わりで深めているか。